



全国に広がる Honda の高校生交通安全教育活動 連載:第6回

生徒指導部とクラス担任の先生方が協力して Hondaのノウハウを活用した教育を実践



セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の全クラスで担任の先生方がHondaの高校生交通安全教育(感受性教育)を活用して、交通安全の授業を実施



7限目は教室に戻り、高校・中学校の各クラスで担任の先生方による感受性教育となる。感受性教育とは、実際に中学生・高校生が加害者となった自転車事故の事例などをもとに生徒同士が話し合うことで、安全意識の向上を図るものである。先生方はホンダ

このコーナーでは、ホンダが全国で取り組んでいる高校生交通安全教育を取り上げている。今回は、三重県津市にあるセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の先生方がHondaのノウハウを活用して生徒に交通安全教育を行った事例を紹介する。

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の交通安全の授業は4月11日の6限目と7限目の各50分を使って実施された。同校生徒指導部の小山勝弘教諭は「現在は生徒の3〜4割が自宅から学校まで自転車を利用して帰る。帰宅後や休日に自転車で乗っている時は事故に遭う可能性があることを意識してもらわなければならない。これまではクラスごとにホームルームの1時間で交通安全に関する指導を行っていました。昨年、ホンダによる高校生交通安全教育のことが知り、今年これを導入し、時間も2時間に拡大したというわけです」と話す。

自転車を守るべきルールとは?

6限目は高校と中学校の全生徒25名を体育館に集め、小山教諭が自転車教育の座学を行った。ホンダが提供した資料をもとに小山教諭が解説を加えていく。「皆さんは子ども頃から交通安全教育を受けてきたと思います。その時に、言われたのは『交通ルール、マナーを守ろう』という言葉だったはず。では、このルールとマナーとはどういうことでしょうか?と小山教諭は問いかける。そして、ルールは法律や校則のように、人が従うべき規則であり、マナーは礼儀や作法など、人に対する思いやりの心であること、このルールとマナーが交通安全にとって重要であることを説明。「道路を通行するために定められたルールが道路交通法です。この道路交通法で、自転車は軽車両と定義されています。

事故事例をもとに生徒同士で話し合う

事故の原因については、すべての班が自転車利用者の信号無視であると発表した。先生が「私たちが道路を利用する際に、まずやるべきことは交通ルールを守ることです。これを実践していれば、相手を傷つけることはありませんし、自分の身を守ることにもつながります。自転車利用者が交通ルールを守っていれば、事故は起きなかったといえるでしょう」と補足する。

次に自転車利用者の心理状態について、「朝なので自転車を運転して



生徒指導部の小山教諭による座学。同校の周辺にある見通しの悪い交差点の写真を提示するなど、こうした場所での一時停止と安全確認の必要性を解説



す。車両の仲間ですから、皆さんも自転車に乗る時はクルマやバイクと同じように道路交通法を守らなければいけません」と強調した。

さらに、自転車事故は交差点での出会い頭衝突が多いことから、同校の周辺にある見通しの悪い交差点の写真をいくつか見せ、こうした交差点での安全な通行方法をアドバイス。また、高校生による自転車の加害事故を紹介し、加害者になった場合は「刑事上の責任」「民事上の責任」「道義的な責任」が問われることを解説した。

の中学生・高校生向け自転車教育用ワークシートを使って授業を進める。このワークシートは実際に起きた事故事例から、生徒が日頃の自分の行動を振り返ることができるようになっている。

高校2年生のクラスでは「信号無視による交通事故」(下記参照)を取り上げた。先生が設定場面と事故の経緯を説明。生徒たちは、「この事故がなぜ起きたのか」「事故を起こす直前の自転車利用者の心理状態」「事故が起きたら、後々どんな影響が出るか」を考え、ワークシートにまとめていく。そして班に分かれ、グループ・ディスカッションを行い、話し合った内容を、各班の代表者が黒板に書き込む。

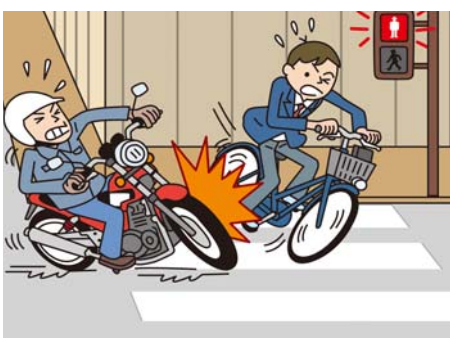
事故の加害者になった場合の責任を考える

事故が起きた影響として、被害者だけでなく、その遺族の人生をくわわせてしまうことを先生が指摘する。「このケースでは被害者は死亡しているため、約4000万円という高額の賠償金を支払うことが命じられています。高校生にはその能力はありませんから、保護者が代わりに支払うことになるのです。もし、事故の加害者になった場合は、自分はもちろん家族の未来も変わってしまうことを忘れないでください。」

最後に、生徒がこれまでのヒヤリ体験を発表し合い、生徒一人ひとりが交通事故防止に向けた決意をワークシートに記入し、7限目の授業は終了した。

いた高校生は、登校中だったのでしよう。信号無視をしなければいけないほど急いでいたと推測できます。こうした状況にならないためには、どうすればいいでしょうか?と先生が質問。生徒たちは「早く起きて、余裕を持って家を出る」と答えた。「そうです。少し早く準備をして登校すれば、信号無視をすることはなかったかもしれません。」

高校2年生のクラスで使用されたワークシートの事故事例「信号無視による交通事故」男子高校生が朝、赤信号で交差点の横断歩道を進行したところ、男性のバイクと衝突。バイクの男性は13日後に亡くなり、男子高校生には4032万円の賠償命令が下された」



感受性教育を担当した一人、伊藤晴紀教諭は「ワークシートの題材が高校生の事故事例なので、生徒たちが交通事故を身近に感じることができると内容だと思っています。自分が事故の加害者になってしまった時のことをイメージして、交通ルールを守ることの重要性を理解してくれたはず。生徒たちが自分で考えた意見を発表するというプロセスもあり、座学と合わせて充実した指導ができました」と語る。

セントヨゼフ女子学園における2限を使った授業は学校が主体となり、生徒指導部とクラス担任の先生方が協力して、生徒への交通安全教育に取り組んだ好事例といえるだろう。

座学を担当した小山教諭は「ホンダから提供された座学用のスライドには自転車教育に必要なことが、すべて網羅されていました。また、イラストや動画も豊富に使われているので、生徒たちにわかりやすい説明ができたと思います」と感想を述べた。



生徒たちは事故事例に対する自分の考えを記入した後、班に分かれてグループ討議を行う

班の代表者が討議の結果を黒板に書き込み発表。クラス全体で議論しながら信号無視の危険性を共有する

*ワークシートと指導案は以下のホームページよりダウンロードが可能(無料)。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/